

## 適正な水循環の確保

事例名	13. 透水性舗装
工事名	生月島線歩道整備工事
施行場所	北松浦郡生月町壱部免
事業年度	平成14年
実施機関	自然保護課
適応可能な事業	公園

### <具体的な環境配慮内容>

透水性を持った舗装材を用いることで、雨水を地中に浸透させる。

### <環境配慮の目的と視点>

従来の舗装材は水を通さないため、降った雨が地中に浸透せず、雨水循環を断ち切っていた。しかし、透水性舗装を用いることで、雨を地中に浸透させ、雨水循環を保つことが可能になった。これによって舗装に覆われた地中の状態をより自然に近い状態で保つことができる。

### <環境配慮技術の概要>

舗装の種類の一つ。間隙が多い舗装材を用いることで舗装部分の透水性を高め、雨水を地中に浸透させる。



舗装材の敷き均し状況



舗装材の締め  
固め状況



舗装工事の  
完成状況

< 環境配慮による効果 >

- ・ 雨水が地中へ浸透することによる、植生等の地中生態の改善
- ・ 雨水の浸透による地下水の保全・涵養

< 課題等 >

- ・ 施工後、透水機能を保つために、舗装部分の目詰まりを取り除くメンテナンスが必要。
- ・ 透水機能を持たせるために舗装部分には間隙が多く含まれており、結果として表面強度が弱くなっている。そのため、大型車両等の交通が多い車道には適用が難しい。

< 同技術を採用した他の事例 >

工事名称	実施機関